

# 長崎県看護協会会報

発行所 公益社団法人 長崎県看護協会  
〒854-0072 長崎県諫早市永昌町23番6号  
TEL(0957)49-8050(代) FAX(0957)49-8056  
発行責任者 西村伊知惠  
印 刷 株式会社インテックス



Nagasaki Nursing Association

令和3年度 通常総会	2~3	地区支部だより	10~11
特集 プラチナナースに聞きました	4~9	病院紹介 公立小浜温泉病院	12

令和2年3月に新築移転しました



開催日 令和3年6月19日(土)

場 所 本 会 場 ながさき看護センター

支部会場 長崎県五島中央病院、長崎県上五島病院  
長崎県壹岐病院、長崎県対馬病院

# 通常総会



## 通常総会を終えて

公益社団法人長崎県看護協会  
会長 西村 伊知恵

6月19日、令和3年度長崎県看護協会通常総会を無事に終了することができました。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止と会員の皆様の安全確保の観点から、規模を縮小しての開催となりましたが、皆様のご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます。

私から改めて、新型コロナウイルス感染症に向き合い、それぞれの職場で自身の果たすべき役割を担い最善を尽くしてくださっている会員の皆様に敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。また、スタッフの体調を案じながら、日々多方面に渡るマネジメントにあたっておられる看護管理者の皆様に、感謝と敬意を表します。本当にありがとうございます。私たち長崎県看護協会役員も、この一年は、看護職を支援する団体としての役割の果たし方、事業の進め方などについて悩みながら進んでまいりました。会員の皆様の頑張っている姿に元気をもらい、現場の声を聞くことの大切さに立ち戻る一年でもありました。令和3年度は、これら悩んだことを活かし、前に進む一年にしたいとの思いを強くしています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

令和3年7月25日

### 広報委員より

6月19日に長崎県看護センターを本会場とし、公益社団法人長崎県看護協会通常総会が開催されました。離島支部4会場においても配信により同時開催されました。総会開催にあたり、西村会長から新型コロナウイルス感染症における会員の日頃の努力、苦労等に対し労いの言葉かけがありました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、本会場は必要最小限の人数で行われましたが、質疑応答では活発な意見交換がなされており、各議案に承認が得られました。山口ミユキ名誉会長も出席いただき、長崎県看護協会の更なる発展のために貴重なお言葉も頂きました。また各種表彰を受賞された方の出席はできませんでしたが、後日看護センターにて授賞式が行われました。

記:広報出版委員会 原口翔伍



名誉会長 山口 ミユキ

# 3つの重点目標

1

地域包括ケアシステムの充実に向けた看護の役割推進

2

健康で安全に働き続けられる職場づくりの推進

3

質の高い看護実践を支える生涯学習の推進

おめでとうございます

## 受賞(章)者一覧

### <令和2年秋の叙勲 瑞宝双光章>

片山 由喜子

### <令和3年度 日本看護協会長表彰>

坂田 千枝子  
松本 幸子

### <令和3年度 看護事業功労者知事表彰>

下屋敷 元子  
中尾 理恵子  
山崎 富子



令和3年度 日本看護協会長表彰

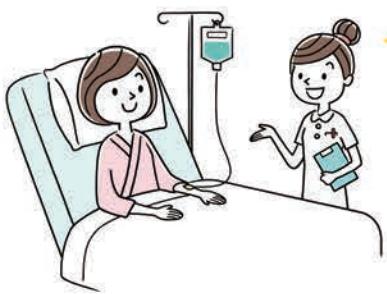
### <令和3年度 長崎県看護協会長表彰>

芦塚 純子 (愛野記念病院)  
荒木 美智枝 (佐世保市総合医療センター)  
池田 津奈子 (長崎大学病院)  
石田 紀代美 (長崎大学病院)  
石丸 貴敏 (市立大村市民病院)  
岡本 和代 (北松中央病院)  
沖崎 さえ子 (愛野記念病院)  
小田 真由美 (愛野記念病院)  
越智 恵美子 (長崎労災病院)  
坂田 幸利 (日浦病院)  
崎山 豊子 (老健おばま)  
下屋敷 元子 (長崎県看護協会在宅支援事業部)  
末永葉子 (北松中央病院)  
柘植久美 (長崎大学病院)  
辻川 真由美 (日本赤十字社長崎原爆諫早病院)

鳥巣 幸美 (長崎県看護協会ケアプランセンター諫早)  
野口操 (佐世保中央病院)  
林田 佐枝子 (昭和会病院)  
久田 明子 (佐世保市総合医療センター)  
平田 智恵子 (北松中央病院)  
松江 富美子 (北松中央病院)  
松尾 有紀 (愛野記念病院)  
松瀬秀子 (佐世保中央病院)  
宮本 真由美 (島原市医師会看護学校)  
元川 津留美 (長崎大学病院)  
森朝子 (北松中央病院)  
山本 リヨエ (公立新小浜病院)  
横山 加代子 (佐世保中央病院)  
吉村 洋子 (佐世保市総合医療センター)

※五十音順、( )内は推薦時点での勤務先です。

※敬称略



# プラチナース



## 壁にぶつかった時は振り返って自分を変えることが乗り越えていけるはじめの一歩

佐世保国際通り病院  
片山 由喜子

### 資格取得年度と職歴

昭和51年4月に佐世保共済病院に就職し、5月の国家試験合格発表をヒヤヒヤしながら待っていたのを覚えています。その後40年間を佐世保共済病院とともに歩み、婦人科以外の部署はすべて経験させてもらいました。入職当時から未熟児室7年、小児科病棟5年のトータル12年間小児に携わってきましたが、子供が大好きでしたのでとても楽しく勤務させていただきました。最後は看護部長として6年間役職につかせていただき、平成29年3月62歳で退職いたしました。退職後は、旧佐世保同仁会病院に再就職し、新病院の建て替えのため系列病院であるサン・レモリハビリ病院への引っ越し等、現在の佐世保国際通り病院(令和3年2月開院)の開設準備に関わり、今に至っています。

### 仕事を続けられた理由

一言でいえば、患者様から感謝されたり、喜んでもらえたことが看護職としての励みになったと思います。「笑顔がとってもいいね！」と言われたのは最高の言葉でした。

看護師になったきっかけは、「手に職を持つと食いっぱぐれないよ」という母の一言でした。そして“いつもニコニコしていれば、みんなが集まってきて助けてくれる”というのが「由喜子」の名前の由来でしたので、この教えが今の私をずっと支えてくれました。ここまで続けられているのも周りの皆さんのおかげだと感謝しています。

### 悩んだこと、どのように乗り越えてきたか

今思えば、仕事の事、人間関係の事、様々な悩みはつきものでしたが、自分自身を振り返る事と自分が変わることが解決の糸口となって、いろんな壁を乗り越えられたと思っています。

スタッフが悩んだ時は「過去と他人は変えることができないけど、未来と自分は変えられる。自分が変われば周りが変わる」といつもアドバイスをしています。

### 現役世代へのメッセージ・アドバイス

令和2年秋に思いもしなかった叙勲を受章しました。周りの人や家族に支えられ、地道に看護職に従事してきたことへのご褒美だと思っています。こうなれば体の続く限り「生涯現役」で頑張らないといけません。まだまだプラチナースとして頑張るしかありませんね。(笑)

自分を信じて、自信をもってコツコツとやっていくことが、いつか評価されていくと思っています。背伸びせずにマイペースで進んでいくことを願っています。壁にぶつかった時は振り返って自分を変えることが乗り越えていくはじめの一歩と思ってください。

最後に、いま流行りの私のSDG's(持続可能な開発目標)は“笑顔”です。お金がかからず、人を幸せにできるものです。皆さんも持続可能な目標をもって看護に従事してくださることを心から願っています。

# に聞きました

プラチナ世代とは…  
長崎県としては定年  
後の継続雇用として  
ます。

Platinum  
Nurse



## 人を相手にする職業として 私が選んだのが看護師

長崎大学病院  
梶原 雅子

### 資格取得年度と職歴

1980年東京医科歯科大学医学部付属看護学校卒業(昭和54年度)、同年看護師資格取得。帰省し長崎大学病院就職。眼科、脳外科、手術部、救急部、そして結婚、出産を挟んで胸部外科、心臓血管外科、循環器内科勤務を経て、副師長として手術部に戻りました。手術部ではスタッフと同様に手術介助に従事し、同時に管理業務も担っていました。2012年から中央診療棟再開発が始まり、手術部メンバーの一員として参加しました。また、重症患者管理システム導入による手術部での電子カルテシステム開発にも携わりました。現在、麻酔科術前外来でシニアスタッフとして勤務しています。

### 仕事を続けられた理由

現代医療において私たちは学び続けなければなりません。そして知識、人との新しい出会いがあり、感動があります。それらを興味深く楽しんできました。患者さんの思いを受け止めどうすれば寄り添い続けられるだろう、それは自然と私の中にある感情なのです。患者さんの笑顔に出会えた時、患者さんとの信頼感を感じた時、喜びを感じ、看護師でよかったと素直に思います。人を相手にする職業として私が選んだのが看護師でした。看護学校入学式での当時の恩師のことば「あなたたちは看護師を職業としてではなく生き方として選んだのです。」その後この言葉が重荷になることもありましたが、やはり今も支えて貢っています。

### 悩んだこと、どのように乗り越えてきたか

患者さんとの思いが通じず私のケアを拒否されたことが、一番悲しく悔しかったことを覚えています。そして手を尽くしても救えない命、お別れしなければならなくなつた時、無力感に襲われてきました。けれどそういう思いを抱いているのは私一人ではない、仲間と共有している安心感がいつもありました。家庭と仕事の両立では、どちらも中途半端ではないかと悩むこともあります。「完璧ではなくても自分なりにやれるとここまでやればいい」と、家族や仲間、周囲の人たちに協力を依頼することに勇気を持とうと、少し開き直りつつ乗り越えてきました。

### 現役世代へのメッセージ・アドバイス

仕事、子育てで悩むことが多いと思います。時間が解決する事もありますが、看護師人生の匂、人生的匂は否応なく過ぎてしまいます。今を大事に楽しんで欲しいと思います。そして悩んだ時は一人ではありません。ヘルプと声を上げて下さい。家族、仲間の誰かが必ず協力してくれるはずです。自分に余裕が生まれ、更に心が豊かになることでしょう。

タスクシフティングにより看護師の担う業務は増えてきています。向上心を持って臨むことは必要だと思います。専門化も進んでいますが、私たち看護師は看護の専門職であることを忘れずに患者さんの心に寄り添い続けて欲しいと思います。



# プラスチナース に聞きました

## 自分の仕事の内容、心身の状況を見極めながら毎日を過ごすことが大切

潜竜徳田循環器科内科整形外科病院

3F 療養病棟看護師

宇良 千里

### 資格取得年度と職歴

- 昭和53年 看護師免許取得  
昭和53年 京都第一赤十字病院入社、病棟看護師として勤務  
臨床指導教師として京都第一赤十字看護専門学校勤務  
平成10年 京都第一赤十字病院退社  
平成25年 京都大原記念病院入社、回復期病棟看護師として勤務  
平成29年 京都大原記念病院退社  
平成29年 株式会社「クオ」入社(佐世保市)  
小規模多機能ホーム「折橋」、サービス付高齢者住宅「幸の里」看護師として勤務  
令和2年 株式会社「クオ」退社  
令和2年 十全会潜竜徳田循環器科、内科、整形外科病院入社、療養病棟看護師として勤務

### 仕事を続けられた理由

普通ですが、看護の仕事が好きだという事です。働く場所や内容が違っても何かしらの形で関わりを持ってきました。今の自分にできる事は何かを考え、少しでも社会の中で活かせる事ができたらと思っています。

また、安定した報酬は、仕事を続けながら生活設計を考える上で必要だと思います。そして、最も大事な理由は、まわりの人達に支えてもらっている事です。仕事の仲間、看護学校の同級生、友達、家族をはじめ、患者様と御家族様など、その関わりの中に気づきや学びがあり、また仕事を続けようという気持ちになれたと思います。

### 悩んだこと、どのように乗り越えてきたか

現在、潜竜徳田病院療養病棟に勤務しています。回復期病棟や高齢者施設勤務の経験や学んだ事を深めたいと思ったからです。もう一度病棟勤務ができるか、不安がありましたら業務内容や勤務時間など相談させて頂ける環境があり再就職を決めました。当病院は地域に深く密着しており、より細かなケアや対応が求められます。新たな気づきもあり不足している知識・技術などの学び直しをしています。新しい環境に慣れるまでに時間もかかり緊張や不安がありますが、スタッフの方の言葉かけや、アドバイスなどに支えてもらっています。今は、とにかくミスのないように事務を終える事を目標に確認をくりかえしながら勤務しています。今後、日々の業務をこなすだけでなく自分をしっかり評価しながら目標を持って働きたいと思います。

### 現役世代へのメッセージ・アドバイス

自分の好きな仕事を続けられるという事は本当に幸せだと思います。年齢とともに重ねた経験や知識を仕事に活かせられると、より仕事が楽しくなると思います。また、看護の仕事は自分自身が健康でなければできないと思います。そのためには身体と心の健康が大切です。自分にあった生活習慣を見つける事が必要だと思います。そして、自分の好きな趣味や楽しみを見つけて心身をリフレッシュすると集中力が高まるようです。それから自分一人では仕事はできないので、まわりの人達への感謝を忘れないようにしたいです。日々、進歩する医学、看護の勉強ができる範囲で続けるのは、もちろんの事、自分の仕事の内容、心身の状況を見極めながら毎日を過ごすことが大切だと思います。



# 将来の自分の看護師像を思いうかべて欲しい

外海弘仁会 日浦病院

坂田 幸利

## 資格取得年度と職歴

昭和58年 看護師免許取得  
昭和58年 医療法人 光晴会病院  
平成15年 長崎市医師会看護専門学校  
平成24年 医療法人 光晴会病院  
令和元年 特別養護老人ホームひこばえ  
令和2年 外海弘仁会 日浦病院

## 仕事を続けられた理由

看護学校卒業時は看護師の免許を取得すれば無職になることはないと思っていた。しかし、看護師として日々、業務を行う中で患者さんと接することが多くなり、「やりがい」を感じるようになりました。それぞれの病院、学校、施設にて業務を行う中で「どのような看護師になりたいか」という目的が出来ました。その目的をすべてではないが達成する事が出来た事が長年、看護師を続けて来られた理由だと思います。

## 悩んだこと、どのように乗り越えてきたか

ある年齢になった時、日々の業務の中、この仕事(職場)を続けていくことは将来、看護師としてやりがいを感じるのか、自分のキャリアとしていいのか、その時々で悩むことがあったように思います。どのように乗り越えたかは、自分自身で解決するには限界があり、自分で決めて必ずしもいい方向に向かわないことも多かったので、家族、上司、同僚、看護学校時代の友人に相談し、アドバイスを受け、最終的には自分で決めて乗り越えてきたと思います。

## 現役世代へのメッセージ・アドバイス

看護師は今後もさらに幅広い分野での活動、活躍が求められてくると思われます。若い時に目的を持って仕事をすることは難しいと思いますが、どのような看護師を目指すのかを考えることは必要だと思います。スペシャリストかジェネラリスト等、何をしたいのか、何を目指すのか、毎日、ただ、単に業務をこなすのではなく、時々立ちどまり、振り返りながら将来の自分の看護師像を思いうかべて欲しいと思います。



# 「プラチナース」に聞きました

## 自分が誰かの家族の手助けをしたい

介護付き有料老人ホームかもん

浦 里美

### 資格取得年度と職歴

昭和54年3月 准看護師免許取得  
昭和55年4月～昭和61年8月 杏林病院(出産育児退職)  
昭和62年5月～平成元年1月 波佐見病院(出産育児退職)  
平成元年9月～平成22年9月 石坂脳神経外科(自己退職)  
平成23年1月～令和2年5月 福田外科病院(定年退職)  
令和2年9月～介護付き有料老人ホームかもん

### 仕事を続けられた理由・悩んだこと、どのように乗り越えてきたか

何となく選び、何となく進んだ道であったが、学んだことが現場で活かせるとワクワクし、患者様から労いと感謝の言葉を頂くと、更に意欲が倍増し、先輩方のあとを一生懸命ついていきました。

叱られることで覚えていくのが当たり前と言った風で、泣くことが多かったなあと思います。勉強熱心な院長先生が率いる急性期の脳神経外科に就いた後は、解剖生理から疾病に対しての取り組み方を毎日教授していただいだおかげで、3次救急搬送の患者様が社会復帰される手助けの一員となれました。

実績が重なると、やりがいが大きく3Kと言われる看護職でも苦とは思いませんでした。

母が癌で倒れた時は、「他人様より母」と退職し、在宅療養に励みました。入退院を繰り返すうちに、母が看護師への感謝と信頼する気持ちが救いだと言っておりました。

やはり好きな職場であり「お前も患者さんには優しくせんばよ」と言われ、母の回復後、母が受けた思いを今度は自分も誰かの家族の手助けをしたいと就職しました。

次に勤いた救急病院では高齢者の搬送・入院が多く、退院の際、介護者がおらず在宅生活が困難なため、施設を選ばざるを得ない方が多かったです。施設入所待ちの状態だと入院期間が長期化していくのが現状でした。家族に迷惑をかけるよりはと、施設を選択する方も多く、高齢化社会の問題を感じました。

回復した矢先に高度の脳梗塞を発症し、逝ってしまった母が恋しく、「あれもできなかつた。これもやればよかつた。」と後悔しながら過ごしました。定年を迎えたときに、乏しくしても習得した知識を使い、機能低下や疾病増悪の予防ができるべと現在勤務する高齢者施設への就労を希望しました。母が生きていればと思い、母と同年代の方が重なり合い親しみが溢れ、毎日楽しく出勤しています。



## 仕事を続けるうえで、「on(仕事)とoff(プライベート)」の自己コントロールが何より大事

公益社団法人長崎県看護協会 在宅支援事業部 部長  
下屋敷 元子

### 資格取得年度と職歴

昭和55年5月 看護師資格取得  
名古屋保健衛生大学(現:藤田医科大学病院)勤務  
長崎三菱病院勤務  
出産・夫の転勤、山口県にてナースセンター登録し、訪問看護師養成講座受講。  
山口県宇部市医師会訪問看護ステーション勤務  
東京都重症心身障害児(者)訪問看護東部事業所勤務  
平成12年4月 長崎県看護協会 訪問看護ステーションYOU入職  
平成19年7月 長崎県看護協会 訪問看護ステーションYOU所長  
平成28年4月 長崎県看護協会 訪問看護ステーションYOU在宅支援事業部 部長



### 仕事を続けられた理由

フローレンス・ナイチンゲール【女性よ自立しなさい。自分の足で立ちなさい】の言葉に支えられ、「看護師として活躍したい」という気持ちを持ち続けました。ブランクがあった私は、訪問看護師養成講座受講1ヶ月間、学ぶことが楽しく学生時代以上に勉強しました。実際に訪問看護ステーションに入職し、0歳から人生の大先輩と幅広い利用者さんやご家族と関わり、人柄・人生にも触れ、寄り添い、思いを最優先に考え、必要な支援(看護ケア)提供を行い、生活を支える看護を実践してきました。利用者さん・ご家族からたくさんの喜びの言葉をいただいたことがエネルギーとなって、訪問看護の仕事が継続できたと思います。

### 悩んだこと、どのように乗り越えてきたか

スタッフから経営・管理の経験もないまま所長となり、事業継続・業務が最優先となっていることに葛藤。事業を開拓していく上で「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」を大切に、自事業所のステーション像を描き、時々壁にぶつかることがありました。上司に相談、アドバイスをいただきながら、「やりたい看護」を効率的に稼働させ、「ピンチはチャンス」に変えてポジティブにチャレンジし、新たな次の目標を持ちながら乗り越えてきました。

### 現役世代へのメッセージ・アドバイス

看護は、人・自身に向き合うことが求められます。看護師でなければできない貴重な体験や、素敵なお会い、嬉しいことがあります。訪問看護ステーションの管理者時は業務過多で、満身創痍になっていました。情熱だけでは管理・経営はできません。仕事を続けるうえで、「on(仕事)とoff(プライベート)」の自己コントロールが何より大事だと思います。

いろんな方との出会いで、自分を成長させてもらいます。生き生きと楽しく仕事ができるよう、自分らしいポジティブな思考・気分転換を心がけてみてください。そして、2025年問題を間近に控えた今、地域医療を支え、生活を守るために、看護職の役割・連携が重要です。一人でも多くの看護職が、プラチナナースとして活躍できる場(環境)があることを願っています。

# 地区支部だより

各支部の活動やお知らせをお届けします。



## 県南支部

支部長 増田 千代子

コロナ感染症対策のマスク着用での暑い夏をいかがお過ごしでしょうか？

県南支部では6/26(土)にオンラインで新旧合同委員会を開催しました。

参加委員総勢50名で、今後の活動についてはZoomのブレイクアウトルームを使用しそれぞれのグループで話し合いを持つ事ができました。画面上ではありますが顔を合わせて会合が出来た事を大変嬉しく思っております。

7/3(土)には看護研究研修会をオンライン開催しました。「研究テーマの絞り方と文献検索」をテーマに、長崎大学生命医科学域(保健学系)成人看護学助教授大山裕介先生より講義頂きました。申込みの21名は全員参加、課題例について受講者に答えて頂くなど、講師の先生の工夫ある研修内容で実り多いものとなりました。

8/21(土)の施設代表者交流会は「特定行為研修修了者の活動状況と活動推進に向けた今」をテーマとし、オンライン開催いたしました。

これからも県南支部の活動にご理解とご協力を願っています。

広報担当:馬場悦子



看護研究研修会



県南支部新旧合同委員会



## 県央支部

支部長 中尾 理恵子

県央支部の活動状況ですが、唯一7月10日に「県央支部施設代表者会議」を、ながさき看護センター4階で開催することが出来ました。病院、看護学校、訪問看護ステーションと色々な職場から25名の参加を頂きました。

予め長崎県看護協会長から、日本看護協会及び長崎県看護協会事業内容についての進捗報告をしてもらった後に3つのテーマについてグループワークを行いました。

①看護協会会員増加に向けて課題と対策 ②本年度の「新人看護師指導の現状と問題点」 ③看護基礎教育4年制化に向けての意見交換  
グループワーク後の報告内容については以下の通りです。

①について:看護教育においては「看護協会入会の必要性」は伝えられている。施設代表者が看護協会入会のメリットを熟知し伝えること。金額に関しては各施設で負担にならないように積み立て等の工夫が必要である。

②について:ベッド稼働率が低下していたため新人指導には例年より手が掛けられ大きな問題はなく少しづつ個人の成長がみられている。

③について:看護を取り巻く医療の現状からみても3年の教育では不十分であり4年制化が望ましい。「技術は卒後教育」でもやっていくので、統合実習を増やすことや「人としての教育」が必要ではないか、今後も継続して考えなければいけない課題である。

色々な職場の代表者の皆さんと意見交換ができました。今後も県協会と連携し会員増対策、看護の質向上、看護教育の4年制化等について継続課題と致し検討していきたいと思います。今後も皆様方のご理解とご協力を願っています。



## 県北支部

支部長 山崎 純子

県北支部では、看護の日記念行事として「そばで支える看護の力」をテーマに看護の日フェスタ開催を予定しておりましたが、新型コロナウィルスの感染拡大によりやむを得ず中止と致しました。2年連続で中止となりしっかり準備をしてきた分とても残念に思います。現在「ふれあい看護体験」の開催について検討しております。安全を考慮し、体験に代わる方法で看護の魅力をお伝えすることができればと考え内容を検討中です。来年こそは、例年通り「看護の日記念行事」「ふれあい看護体験」が開催できるようコロナの終息を願うばかりです。



今回準備した手作りのロゴマークです



## 下五島支部

支部長 真弓 陽子

残暑の中にも、ほのかな秋の気配が感じられる季節となりました。いかがお過ごしでしょうか?コロナ禍の影響で今年も地域イベント(トライアスロン・夕焼けマラソン)が中止となり、下五島支部としての活動ができませんでしたが、後半のイベントへ参加できることを願っております。

離島間による通配信研修会、7/24(土)対馬支部配信「発達障害傾向のある人への関わり方」Zoom使用によるオンライン研修に参加させていただきました。今後上五島支部配信研修・離島就業看護職員研修など、島外への研修ができる状況の中で、できる限り環境を整え、多くの方に参加して頂き自己研鑽に努めるよう、呼びかけていきたいと思います。

また、地域における関係機関との連携・会議への出席など、計画によって活動を行っていきたいと思います。

どうぞ今後ともご指導、ご理解、ご協力をお願いいたします。



## 上五島支部

支部長 頭島 利江子

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症発生により、支部活動も停滞しておりました。支部事業計画は、ほとんどが計画のままで終わってしまい、イベント参加、ボランティア活動も、ほとんどできませんでした。気持ちを新たに、令和3年7月1日に、支部運営委員会を開催し、小児から高齢者まで、できるだけ多くの地域の方との関わりを絶やさないようにしていく気持ちでいることの確認をしました。

コロナ禍の中ですが、感染予防対策を行い、「まちの保健室」やイベントへの協力・ボランティア活動ができるように検討しています。研修会も中止や延期となることがないように状況の把握をし、「できる」方法を探っていきたいと考えています。



## 壱岐支部

支部長 鋸崎 くみ子

壱岐支部では、6月19日(土)に小規模ではありましたが、支部報告会を開催し、支部役員が13名から10名になりました。今年度から新メンバー1名が加わり、会員の増員を目標とし、少しでも島の医療・福祉・介護に貢献できる活動を目指していきます。

### 研修会の報告

新型コロナウイルスの感染が少し落ち着き、7月15日(木)18:30~皮膚排泄ケア認定看護師の横山操先生より、「ポジショニングとスキンケア」について研修を開催しました。島内の介護職の方にも多数参加していただき、とても丁寧で分かりやすい講義内容でした。参加者の方から実技研修の希望の声があり、次回コロナが落ち着けば是非計画したいと思っています。

令和3年度  
支部役員です。



## 対馬支部

支部長 山田 久美子

令和3年3月6日、規模を縮小し、看護研究発表会・研修会を開催しました。悪天候の中、講師の到着が心配されましたが、無事5演題(3施設)の発表を終えました。的確な講評を受け、今後の研究に役立つものとなりました。また、研修会では、“適切なレポート・論文・報告書の書き方を学ぶ”ことができ、出席者の苦手意識も薄れたと好評価でした。

7月24日には、“発達障害傾向のある人への関わり方”をテーマに、Zoomによる4離島間通配信研修を行いました。講師を長崎県精神医療センター副院長兼看護部長山中利文先生にお願いし、関わり方のスキルを学び、今後の指導に活かして行きたいと思います。

対馬地域のコロナワクチン接種が、安全に迅速に進むよう私達も力を合わせ協力しています。



# 病院紹介

## 公立小浜温泉病院



公立小浜温泉病院は、島原半島の西部に位置し、目の前には波静かな橘湾、後方には四季折々に色づく雲仙普賢岳に囲まれた自然豊かなところにあります。平成23年4月より医療法人社団苑田会が指定管理者として運営し、急性期病棟60床、地域包括ケア病棟30床、回復期リハビリテーション病棟60床、計150床を有するケアミックス病院です。地域の中核病院として地域住民の立場にたち、地域との連携を図り退院後の生活を支援する役割があります。病院の理念として「患者さんの痛みを共有する心を涵養する」を掲げ、地域の高齢化に伴い認知症、在宅での看取りが増えつつある中、近隣の医療機関と連携を保ちながら医療分担での治療を行っています。現病院は、令和2年3月に小浜町海岸の埋め立て地に新築移転し、住民から要望もありました人工透析を開始いたしました。小浜温泉を活用した足湯、リハビリも始めています。地域の皆様に愛され、信頼される病院であり続けるように、職員一丸となって努力してまいります。

スタッフステーション



スタッフステーション

心カテ・心臓リハビリテーション



透析室



透析室スタッフ



足湯



託児所・フレイルーム

